

ブドウ(有核・雨除け栽培)の栽培・防除暦(平成31年(2019年)版)

生産履歴の記帳を怠らぬよう

農薬散布時は飛散防止に努めよう

月	旬	生育相	管理作業	対象病害虫	基幹防除		100% 当たり 薬量	補完防除及び注意事項	散布日 散布量 記入欄
					FRACコート [®] (殺菌剤)	IRACコート [®] (殺虫剤)			
1		休眠期	発芽促進(CX-10)処理, 主枝延長枝への芽傷処理	◎越冬病害, 枝膨病	罹病枝, 巻づる, せん定枝, 落葉は, 園外に持ち出す。 防風垣を整備し, 園内の通風を良くする。				
2				◎晩腐病, 褐斑病 黒とう病, つる割病	ペフラン液剤25	M7	250倍	400cc	
3	中 下	萌芽直前 萌芽期	ビニル被覆 灌水	◎べと病	キノドーフロアブル	M1	600倍	166cc	月 日 年
4	上 中 下	発芽 展葉期 展葉7~8枚	芽かき 新梢誘引 フラスター液剤(500倍)散布	◎べと病, 褐斑病 晩腐病 ◎べと病, 褐斑病 晩腐病	ジマンダイセン水和剤	M3	1,000倍	100g	※ 病害は十分な散布量(300% ^{10a} 以上)で 初期発生を確実に抑える ○アガネサルハムシ スミチオン水和剤40 1,000倍 M1B ※ ハウス内の湿度が上がらないように換気 を行う(病害発生防止) ※ 灰色かび病は耐性菌発生の恐れがある ため, 同一農薬を連用しない ○灰色かび病 ハスワード [®] 顆粒水和剤 1,500倍 M17 ◎チャノキアザミウマ アクトラ顆粒水溶剤 2,000倍 M4A ※晩腐病発生園では落花期に アミスター10フロアブル 1,000倍を散布する M11
5	上 中 下	開花前 開花初期 開花直後 落花期 果粒肥大期	新梢誘引 花穂整形 摘粒	◎灰色かび病, 晩腐病 ◎灰色かび病 ◎アザミウマ類, ハマキムシ類	スイッチ顆粒水和剤	M9, 12	2,000倍	50g	月 日 年
					フルーツセイバー	M7	1,500倍	66g	月 日 年
					ディアナWDG	M5	5,000倍	20g	※花がら落としを十分に行う
6	上 中 下	果粒肥大期 (大豆粒期) 硬核期	摘粒 袋掛け (できるだけ昼温を下げる) 新梢誘引 ビニル除去	◎晩腐病, 褐斑病 ◎チャノキアザミウマ ◎褐斑病 ◎べと病	袋掛け前 オンリーワンフロアブル	M3	2,000倍	50cc	○コウモリガ ガットサイトS 原液~1.5倍(21日前まで) ※ 幼虫食入期直前~食入初期に主幹部に 塗布する M1B 【袋かけ後】 ○チャノキアザミウマ多発生時 ダントツ水溶剤 2,000倍(前日まで) M4A モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(14日まで) M4A ○ハダニ類 スターマイトフロアブル 2,000倍(14日前まで) M25A ○ハマキムシ類 サムコロフロアブル10 5,000倍(前日まで) M28 ○べと病 イトフインフロアブル 1,000倍(7日前まで) M22 レーバースフロアブル 2,000倍(7日前まで) M40 ○褐斑病 オンリーワンフロアブル 2,000倍(前日まで) M3
					コルト顆粒水和剤	M9B	3,000倍	33g	月 日 年
					※袋掛け前には必ずチャノキアザミウマの防 除を行う。 ビニール除去前	M3		50cc	
					オーシャインフロアブル(7日前まで)		2,000倍	50cc	
					ランマンフロアブル(14日前まで)		2,000倍	50cc	
7	上 中 下	果粒軟化期 着色開始	新梢誘引 適正着果量確認 新梢管理	◎べと病	ムッシュホルト [®] -DF 又はICホルト [®] -48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg	月 日 年
8	上 中 下	成熟期	収穫始め						月 日 年
9			収穫終わり	◎べと病 ◎ブドウトラカミキリ	ムッシュホルト [®] -DF 又はICホルト [®] -48Q スミチオン水和剤40	M1 M1 M1B	500倍 30倍 800倍	200g 3.3kg 125g	スミチオン水和剤40の散布は収穫後に限る ※晩腐病発生園ではICホルト [®] -48Qに替えて ICホルト [®] -66D 50倍を散布する M11
10			土づくり ↑ 土壤改良資材 堆肥投入 中耕 ↓ 排水対策 縮・間伐 整枝・せん定 巻づる除去	◎べと病	ムッシュホルト [®] -DF 又はICホルト [®] -48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg	ブドウトラカミキリ発生時は, ダントツ水溶剤 2,000倍を加用する M4A
11		落葉前		◎べと病	ムッシュホルト [®] -DF 又はICホルト [®] -48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg	※早期落葉を避け, 初霜まで葉を保つ
12		休眠期							○白紋羽病 フロンサイト SC 500倍 50~100% ^{10a} /樹 M29 ※ 灌注器で樹幹から半径1m程度の範囲で 数ヶ所に灌注処理を行う。かぶれに注意

注1)平成31年2月13日現在の登録内容に基づき記載
注2)農薬使用時期・使用回数等については別紙参照

【施肥基準例】

くみあいぶどう配合1号(7-7-7)使用の場合 (10aあたり)

時期	生産量			
	0.5t	1.0t	1.2t	
初秋肥	9月下旬	0.4袋	0.7袋	0.8袋
秋肥	11月中旬	1.7袋	2.8袋	3.4袋
堆肥	落葉後	完熟牛ふん堆肥500kg		

※収穫後葉色の濃い園では, 初秋肥を施用しない

【植物成長調整剤について】

薬剤名	使用目的	使用時期	使用方法	希釈倍数	散布量	本剤の使用回数
CX-10	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	収穫後発芽前	結果母枝に散布又は塗布	10~20倍	150~200% ^{10a} 以内	1回
フラスター液剤(巨峰・施設栽培)	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉7~11枚時(開花始期まで)	散布	500~800倍	100~150% ^{10a} 以内	2回

※使用薬剤, 時期, 濃度, 量, 方法については, 品種ごとにラベルを熟読の上使用する

<農薬登録内容が変更されている場合があるので, 農薬使用前には表示ラベルをしっかりと確認しましょう!>